

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書(欧文)) 1.				
(著書(和文)) 1. 発達と感情の心理学 (胎児期から乳児期まで) 2. 情動に対する反応：情動調整 3. 欲求と感情の心理学	単著 共著 単著	2013年3月31日 2014年4月1日	新 発達と教育の心理学 藤田主一、齋藤雅英、宇部弘子【編著】 心理学概説 - 心理学のエッセンスを学ぶー 巖島行雄・横田正夫【編著】 新 心ころへの挑戦 藤田主一【編著】	本書は教職課程必修科目である「発達と学習」の教科書として刊行された。そのうち発達初期を担当し、概説を行うとともに、近年の乳幼児研究から明らかとなった新たな事実も紹介した。 本書は心理学初学者に向け、広い領域をカバーする教科書として80名余りの研究者によって執筆された。そのうち、感情心理に関わる章を担当した。 心理学初学者を対象とした概論テキストとして刊行された。そのうち第8章欲求と感情の心理学を担当し、動機づけの過程から菅野うとコミュニケーションまで解説した。
(学術論文(欧文)) 1.				
(学術論文(和文)) 1. 顔情報データベース FIND -日本人の顔画像データベース構築の試みー 2. 平均顔を用いた実験用日本人表情刺激作成の試み	共著 共著	第14巻1号 pp. 39- 53. 2009年3月 第9巻1号 pp. 53-69. 2009年9月	感情心理学研究 日本顔学会誌	データベース構築に関する学術的な背景、および顔情報データベースの概要と動的顔合成システム、データベースに収録するための顔画像の収集、データベースの内容に関する実験的評価等について論じた 表情認知研究で用いられる刺激の多くは、研究ごとに不均一であることや、個人情報保護されないという問題がある。そこで本研究では、平均顔を刺激とすることでこれらの問題が解決を検討した。
(紀要論文) 1. 社会経済変動と文化・伝統の変容が幸福に与える影響に関する学際的研究 (日本を分析対象として)	共著	第81号, pp. 233-261. 2011年3月	日本大学文理学部人文科学研究研究所研究紀要	本研究は日本を分析対象として、社会経済発展とグローバル化の進展等に伴う文化・伝統の変容が人々の幸福に及ぼす影響を、理論と実、高山市役所、町並景観保存会等へのインタビューをもとにその姿を明らかにした。

<p>2. 絵葉書についてのイメージ評定に関する探索的研究</p>	<p>共著</p>	<p>2009年9月 pp. 29-31</p>	<p>日本大学文理学部情報科学研究所年次報告書第9号</p>	<p>文理学部情報科学研究所では東アジアにおける都市形成プロセスの統合的把握をめぐる研究としてハルビン絵葉書コレクションのデジタルアーカイブ化を行っている。本報ではこの絵葉書に対する絵葉書のイメージ評定を探索的に行った。その結果はEPAモデルによって説明可能であり、街区ごとの差異が現れているなどの成果が得られているように見受けられた。しかし絵葉書の作為性などについてさらに検証が必要であることを指摘した</p>
<p>3. 高山市における伝統・文化と生活意識に関する調査-心理尺度についての検討</p>	<p>単著</p>	<p>2013年3月29日</p>	<p>常磐短期大学研究紀要41号pp. 13-26.</p>	<p>岐阜県高山市を対象に実施した伝統文化と生活満足度に関するアンケート調査について、土地愛着、価値観、志向性等の心理尺度と主観的幸福感の関連性を分析した。</p>
<p>4. 常磐短期大学キャリア教養学科におけるキャリア教育の実践例</p>	<p>単著</p>	<p>2023年3月29日</p>	<p>常磐短期大学研究紀要51号pp. 27-36.</p>	<p>キャリア教養学科開講科目キャリア形成演習において行ったキャリア教育についてそのどのような目的をもって実施したか、また実践例を紹介した。</p>
<p>(辞書・翻訳書等)</p> <p>1. プルフリッヒの振り子効果 往復する振り子が回転して見えるとき</p>	<p>単著</p>	<p>2010年9月 第19章pp. 83-86</p>	<p>1. L. T. ベンジャミン・ジュニア編 心理学教育のための傑作工夫集 講義をおもしろくする67のアクティビティ</p>	<p>プルフリッヒ効果は視神経の処理速度に起因する錯視効果であり、立体映像などにも応用される現象である。簡単な実験によって大教室での講義でもデモンストレーションができる方法を紹介した。</p>
<p>(報告書・会報等)</p> <p>1. 絵葉書を介したハルビンの景観変遷の印象調査</p> <p>2. 社会経済変動と文化・伝統の変容の幸福への影響に関する学際的研究 (飛騨・高山地域を分析対象として)</p>	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>2012年3月25日</p> <p>2012年3月25日</p>	<p>日本大学文理学部情報科学研究所年次研究報告書 12, 66-68.</p> <p>日本大学文理学部人文科学研究所研究紀要, 83, 115-162.</p>	<p>GISと連動したデータを用いたアンケートシステムを構築し、ハルビンの絵葉書に関する印象調査を行った。また、現地滞在経験者も含めた印象調査を行い、その違いについても検討した。</p> <p>伝統文化と生活満足度の指標である幸福感について高山市を対象にアンケート調査を行い、検討を行った。</p>
<p>(国際学会発表)</p> <p>1. The relationship between eigenface and affective dimension</p>	<p>共著</p>	<p>2011年8月28日</p>	<p>The34thECVP, , Perception, 40ECVP AbstractSupplement, p. 216</p>	<p>顔画像に対するPCA処理によって得られる固有値行列「固有顔」と人間の認知判断との関連性について検討した。</p>

<p>(国内学会発表)</p> <p>1. ドライビング場面における精神負荷の評価</p>	<p>共著</p>	<p>2008年9月19日</p>	<p>日本心理学会第72回大会発表論文集, p. WS11.</p>	<p>板垣ら (2003)は乱数生成課題を用いて運転による作業負荷を検討した。しかし最近の研究により数列生成方略によって脳の活性化領域が異なることが明らかにされつつある。そこで板垣ら (2003)のデータに含まれる自然数系列頻度について再評価を行い、生成方略の個人間、個人内での変動が大きいことを示した。</p>
<p>2. Find画像の示差性評価</p>	<p>共著</p>	<p>2009年11月1日</p>	<p>フォーラム顔学2009 日本顔学会 第14回大会 日本顔学会誌第9巻1号, p. 247.</p>	<p>顔研究において進める上で平均顔を用いることはメリットが多い。しかし平均値が全体の外れ値によって歪むように、平均顔も際立って特徴的な顔、すなわち示差性の高い顔に影響を受ける。そこでまず平均顔の素材となる顔情報データベースFIND収録画像について示差性の検討を行った。</p>
<p>3. 他者の視線変化が注意に及ぼす影響</p>		<p>2009年12月6日</p>	<p>日本基礎心理学会第27回大会 基礎心理学研究第27巻2号, p. 173.</p>	<p>Friesen & Kingstone(1998)は顔図形呈示時に呈示された図形に示された視線方向へ観察者の注意が誘導されることを示している。本研究ではこの現象の追試とともに顔図形呈示後に視線方向が変化した場合、より強い注意シフトが生じると仮定し検証を行った。実験の結果、視線移動の主効果に有意な差は見いだされなかった。先行研究で用いられた手続きとの差異など、検討すべき事項が残った。</p>
<p>4. 変化検出課題における顔の示差性効果の検討</p>	<p>共著</p>	<p>2010年10月24日</p>	<p>フォーラム顔学2010 日本顔学会 第15回大会</p>	<p>人ごみの中でも見つけやすい顔を示唆性の高い顔と呼ぶ。こうした顔は典型的な顔よりも検出がなされやすいと考えられる。Ryu and Chaudhuri (2007) は、注意の瞬き (attentional blink : AB) を引き起こすとされる変化検出課題を行い、その点を検討した。本研究ではこれを先行研究として追試を行った。その結果、示唆性の高い顔は効率的な注意処理が行われていることが示唆された。</p>
<p>5. 表情認知における顔画像の主成分と感情的意味評価の関係</p>	<p>共著</p>	<p>2010年11月28日</p>	<p>日本基礎心理学会第29回大会プログラム Pp. 91</p>	<p>表情認知過程における顔の物理変数と心理変数の関係を探ることを目的とした。6名のモデルの無表情と基本6表情 (喜び、驚き、恐れ、悲しみ、怒り、嫌悪) の顔画像を用いて、顔画像の主成分分析を実施し、表情認知に関わる顔の主成分 (固有顔) の抽出を試みた。一方で顔画像を用いた意味評価実験を実施し、固有顔と意味評価の関係について分析した。</p>
<p>6. デジタルアーカイブ化されたハルビン絵葉書資料に対する印象調査</p>	<p>共著</p>	<p>2011年9月8日</p>	<p>第10回情報科学技術フォーラム, FIT2011, p. 415-420</p>	<p>携帯型電子端末を用いた調査システムの紹介とハルビンの絵葉書に関する印象調査結果の報告を行った。また、調査対象者の年齢幅を拡げ、より精度の高い調査を行ったことを報告した。</p>

7. 男女の高齢者と大学生における色彩好悪と色彩感情	共著	2011年9月16日	日本心理学会第75回大会発表論文集, p. 1032	色彩に関する選好について年齢、性別による差異がどのように生じているかを調査検討した。
8. 絵葉書を介したハルビンの景観変遷の印象調査	共著	2011年12月8日	電子情報通信学会HCGシンポジウム2011発表論文集CD-ROM	GISデータを用いて地域を特定した絵葉書を基にハルビン市の各街区の歴史的特徴と心理的評価の間に関連性がみられるかどうかを検討した。
9. 真顔から読み取られる感情と特性の関係	共著	2012年9月11日	日本心理学会大会第76回大会発表論文集EPMA05	他者の印象と表情評価の関係について質問紙評価による関係性の検討を行った。その結果両者の関係性が認められ、かつその関係性が複雑なものであることが示唆された。
10. 絵画知覚における美しさと大きさの関係	共著	2019年9月12日	日本心理学会第83回大会大会発表論文集2C-029	絵画の美しさ知覚においては複数の次元が関わっている。対象の大きさが美しさ判断に与える影響について満月の大きさを用いて実験的検討を行った。その結果、対象の美しさ判断には大きさの記憶が強く影響を及ぼすことが示唆された。
(演奏会・展覧会等) 1.				
(招待講演・基調講演) 1.				
(受賞(学術賞等)) 1.				

研 究 活 動 項 目

助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等の別	種 類	採択年度	交付・受入元	交付・受入額	概 要
(科学研究費採択) 1.						
(競争的研究助成費獲得(科研費除く)) 1.						
(共同研究・受託研究受入れ) 1.						
(奨学・指定寄付金受入れ) 1.						
(学内課題研究(共同研究)) 1.		—		—		
(学内課題研究(各個研究)) 1.	—	—		—		
(知的財産(特許・実用新案等)) 1.	—			—	—	